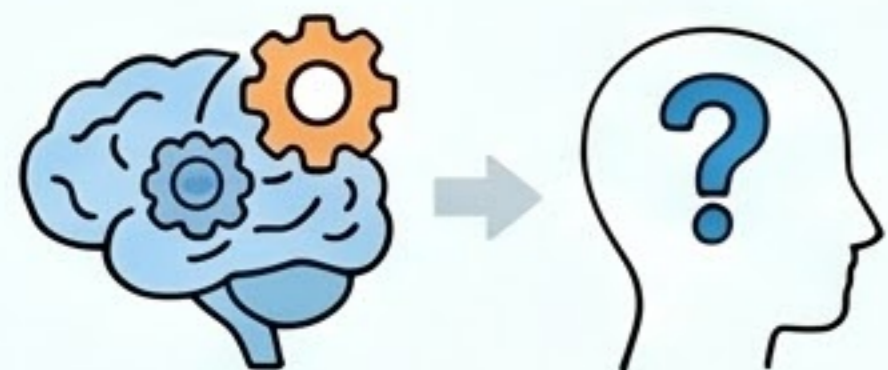


ベネッセの生成AI活用：発達段階に応じた「学びの伴走者」の進化

ベネッセ流「生成AI活用」の3つの基本モデル

「答えを出す機械」から「問いを深める伴走者」へ



生成AIを汎用ツールとして開放するのではなく、朋利異間やテスト対策などの教育目的に限定し、思考を促すヒント型支援を徹底しています。

教育資産(コンテンツ)とAIの統合



進研ゼミ55年
こどもちゃれんじ35年
親見を活用し、AI単体では不可能な信頼性の高い個別最適化学習を実現しています。

人間とのハイブリッド設計



AIで解決できない疑問が生じた場合は、人間の教科アドバイザーにスムーズに接続し、AIの視界を補完する体制を整えています。

発達段階別の主なサービス展開

【幼児期】

会話型AI「しまじろう」

専用のぬいぐるみとアプリを使い、自由会話や読み聞かせを通じて読解力や好奇心を育み、興味関心を保護者にレポートします。



【小学生】

自由研究お助けAI

夏休みのテーマ決めに支障する対話型サービス。答えを生成するのではなく、興味関心を広げる問いを立てる体験を提供します。



小学生の生成AI認知率は**74.7%**

2023年から約26ポイント上昇しており、認知している層の80%以上が利用経験を持っています。

対象学齢 | 学習での生成AI使用率

小学4~6年生
約**10%**

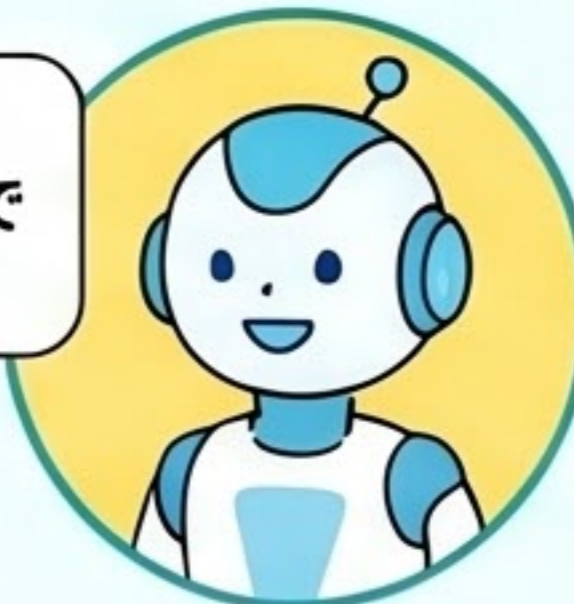


【小・中学生】

チャレンジAI学習コーチ

学習のつまずきをAIキャラクターとの対話で言語化し、自力で答えにたどり着けるよう視点や考え方を提示します。

学習のつまずきをAIキャラクターとの対話で言語化し、自力でようか?



中学生 **約30%**

【高校生】

新「進研ゼミ 高校講座」

- 24時間対応のAI質問回答
- 図解を即座に生成する「ビジュアル解説」
- 個別の学習計画を作成する「AIテスバ」を統合しています。



高校生の**87.6%**が学習にAIを活用

分からない問題を生成AIに展開する割合は63.6%にのぼり、高校生にとってAIは日常的な学習パートナーになりつつあります。

高校生 **約60%**

安心・安全な利用のための課題と対策



保護者の**49.3%**が感じる「思考力低下」への懸念

「分からない時にまずAIに聞く」習慣による自律的思考の減少がリスクとして挙げられており、ヒント型設計による対策が不可欠です。



家庭内における対話とルール作りの不足

生成AIの使い方を親子で話したことがある家庭は約5割にとどまっており、家庭向けガイドラインの提供が求められています。

徹底した安全性への配慮

- 入力データの再学習不使用
- 質問回数の制限
- 保護者承認制
- 利用前の情報リテラシー学習動画の提供などを実施しています。